

兵庫県姫路市

中心市街地活性化基本計画

【3期計画：令和2年4月～令和7年3月】

- ・戦国時代には、姫路城の城下町として栄え発展の基礎を築く
- ・戦後にかけて、戦災からの復興、臨海部での工業地帯の形成などにより、播磨地域の中核として発展する。
- ・人口536,192人（※平成31年3月現在 住民基本台帳）、面積534.35km²

【前期計画（平成27年4月～令和2年3月）の概要】

○キャストィ21コアゾーン整備事業をはじめとする駅周辺の再開発によって、利用者が増加しにぎわいが創出された。

○再開発事業に伴い、中心市街地の魅力が向上し、民間企業によるマンション建設が増加しており、中心市街地の居住人口が増加している。

【中心市街地の課題等】

○中心市街地全体での回遊性の向上

居住者や観光客は増加しているが、中心市街地全体の回遊性向上には至っていないことから、多世代のライフスタイルに応じた機能の導入や外国人観光客でも楽しめる取組みが重要である。

○商店街の魅力的な店舗・サービスの導入

商店街の回遊性や利用者数が伸び悩んでいることから、多世代居住や外国人観光客の増加を踏まえた個性的な店舗や魅力的な店舗が求められている。

○多世代が暮らしやすい環境づくり

中心市街地での高齢者人口は年々増加しているとともに、若い世代の流入も多くなっていることから、多世代に快適・便利で、安全・安心な暮らしやすい環境づくりが重要となっている。

【目指す中心市街地の都市像】

国内外の人々が行き交い愛され、市民が愛着をもつ城下（まち）

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値 ※()は目標値の達成見込
新たな魅力の創出と移動環境の向上による来訪者数の増加	歩行者・自転車通行量 (1日あたり平均)	63,639人/日 (H22～H25の 平均値)	82,000人/日 (H31)	70,118人/日 (H30:未達成)
新陳代謝の促進による街なか(商店街)の活性化	空き店舗数	36店舗 (H25)	28店舗 (H31)	31店舗 (H30:未達成)
多世代が快適・便利に暮らせる居住環境の向上	居住者数	8,797人 (H25)	8,894人 (H31)	10,520人 (H30:達成)
市民が運動できる仕組み・体制の構築	イベント実施日数	286日/年 (H25.9～H26.8)	321日/年 (H31)	468日/年 (H30:達成)

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値
国際観光都市「姫路」ブランドの確立	歩行者・自転車通行量 (人/日)	106,266 (H27～R1の平均値)	110,000 (R6.4)
姫路城、商店街、駅前を 結ぶ魅力の創出	新規出店店舗数 (店舗)	11 (H29.12～H30.12)	60 (R2～R6の累計)
	【補完目標】空き店舗数 (店舗)	31 (H30)	26 (R7.3)
楽しさと安心感のある 多世代居住の推進	居住者数 (人)	10,520 (H30)	10,820 (R7.3)
持続的な エリアマネジメントの構築	【補完目標】 来街者の中心市街地での 滞留時間(分/人)	156.6分/人 (R1)	180.0分/人 (R6)

行きたい城下（まち）

～国内外の人々が訪れるまちづくり～

- ・大手前通りエリア魅力向上推進事業
- ・姫路市文化コンベンションセンター整備事業

にぎわう城下（まち）

～人々が集い回遊するまちづくり～

- ・中心市街地空き店舗対策事業
- ・街なか創業支援事業
- ・リノベーションまちづくりの推進

住みたい城下（まち）

～人々が安心して暮らしやすいまちづくり～

- ・姫路駅周辺土地区画整理事業
- ・駅南土地区画整理事業(姫路駅南西地区)
- ・県立はりま姫路総合医療センター(仮称)整備事業

市民が主役の城下（まち）

～市民が躍動できるまちづくり～

- ・エリアマネジメント運営に向けた仕組みづくり
- ・姫路駅北にぎわい交流広場活用事業

姫路市中心市街地活性化基本計画の事業概要

行きたい城下（まち）

～国内外の人々が訪れるまちづくり～

①大手前通りエリア魅力向上推進事業

再整備された大手前通りにおいて、人が滞留しにぎわう魅力的な空間を目指し、将来ビジョンの作成や利活用スキームの検討等を進め、大手前通りのエリア価値向上に取り組む。

②姫路市文化コンベンションセンター整備事業

播磨の連携中核都市にふさわしい交流の拠点施設として、姫路市文化コンベンションセンター及び周辺施設を整備することにより、姫路駅から東西に広がる新しい人の流れを創出し、中心市街地のさらなる向上を目指す。



にぎわう城下（まち）

～人々が集う回遊するまちづくり～

③中心市街地空き店舗対策事業

空き店舗への出店に対する支援を行うとともに、テナントミックス等により必要な業種・業態の適正配置を図り、新たな魅力ある店舗等の出店を促進し、商店街の魅力向上や来街者の回遊促進を図る。

④街なか創業支援事業

まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等が挑戦しやすい環境づくり及び支援を行う。

⑤リノベーションまちづくりの推進

空き店舗等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりを推進するため、民間事業者等のノウハウを活用した事業を支援し、姫路駅西地区等のエリア再生に向けて取り組む。

中心市街地面積：約222ha

中心市街地人口：10,520人（平成31年3月末）



住みたい城下（まち）

～人々が安心して暮らしやすいまちづくり～

⑥姫路駅周辺土地区画整理事業

JR山陽本線等の高架用地の確保、姫路駅を中心とする南北市街地の一体化及び駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備等により、「姫路の顔づくり」「播磨の顔づくり」としてふさわしい街区の形成を図る。

⑦駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区） （土地区画整理事業）

土地区画整理事業の施行により、都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的として、都市基盤施設の整備改善を行い宅地の利用増進を図る。

⑧県立はりま姫路総合医療センター（仮称） 整備事業

県立はりま姫路総合医療センター（仮称）等を整備することにより、播磨姫路圏域において、安定的・継続的に高度で良質な医療を提供するとともに、地域医療人材の確保に取り組む。

市民が主役の城下（まち）

～市民が躍動できるまちづくり～

⑨エリアマネジメント運営に向けた 仕組みづくり

中心市街地のにぎわい創出およびエリア全体への効果波及、滞留時間の延長を目指し、民間活力を活用した持続可能なまちづくりの推進のため、エリアマネジメントの運営に向けた仕組みづくりを行う。

⑩姫路駅北にぎわい交流広場活用事業

市民によるさらなる広場の利活用を推進し、中心部のにぎわいづくり及び来街者の回遊性向上を図るとともに、広場の魅力向上に資する取り組みを継続的に行う。